

(3) 読み取り道徳から、考え・議論する道徳へ（大仁北小・中間発表の軌跡）

○外部講師招聘による授業づくり研修

これまでの授業から新しい授業へ転換するために、必要な考え方を教授いただいた。また、若手研・中堅研・地域支援課訪問・中間発表など、様々な機会を通して、新しい形の道徳学習指導案を互いに練り合いながら作り、授業を見合うことで研修を深めた。

ねらいとする価値の指導者理解の大切さが分かった。



○多様な考えに出会う発問の工夫

・指導のねらい（道徳的価値）の焦点化

実感が伴わない言葉のやりとりにならないように、発達段階や子どもの実態に合った教材の選定や中心発問を考える。

児童同士の交流・議論が活発になり、価値が深まるような補助発問を効果的に取り入れていく。

・分析シートの利用

分析シートを使うことで、教材の構造が理解しやすくなり、価値の焦点化につながった。



主人公に自分を重ねた発問だけでなく、主人公を客観的に見た発問（分析的・批判的）が効果的だった。

友達の考えを聞いたり自分の思いを話したりする活動は楽しい。

○相互指名による話合いの充実（6年生の実践）

教室の机をコの字型に並べて、児童同士の顔が見える環境にした。中心発問については、児童の相互指名によって話し合った。このことで、児童の本音が自然に出るようになり、互いの意見を聞いたり、自分事として考えたりする姿勢が身についた。道徳的価値の自覚を深めるため、必要に応じて教師が補助発問を投げ掛けた。



○考えを整理するする板書の工夫

児童の思考・議論の流れを構造的にまとめ、道徳的価値の焦点化がしやすくなるようにした。

○振り返りカードの蓄積

児童自身が1時間の授業を振り返るだけでなく、授業の評価としても役立てることができた。

児童：価値に対する変容
教師：価値の焦点化ができてきたか

第23回 道徳

『頂上はすぐそこに』

たった一人でいる私は、頂上をめざすことも引き返すことも自由。

（自分ならどうする？）
○頂上をめざす（黄色） ○下山する（青色）

◎私はなぜ頂上をめざさなかったのでしょうか？

・本気は意図したいけど、危険にさらされる可能性が減る。
・目的は自分の力を確かめることだから、安全を考えて下山した。
・仲間との約束を守ることができず。

◎安全・約束

・家族やまわりの人が心配しなくて済む。
・選ばれる可能性が減り、そうさく隊の人たちに迷惑をかけることなく、知っている人だけに迷惑をかけることなく済む。

◎迷惑をかけない

◎自由とは・・・

◎自分のことを考えて

◎まわりのことを考えて

◎責任

・自分で決めたことだから悔いはない。
・人のせいにならない。
・仲間やまわりの人に心配させてはいけないから。（迷惑をけない）

自由を選ぶ

方角一の場合は道徳が分かる。

あの山はなかなか大変だぞ。

はいてはいけない。

あの山を登るのも大変だ。

決して無理はしない。自分の力を確かめたい。

単独登山から自由に行動できる。

心を大きく育てよう

自分への約束

仲間への約束

社会への約束

自分への約束

仲間への約束

社会への約束

○35時間の授業を確実に実施

授業で扱った教材名や、内容項目などを記入したものを掲示して視覚化することで、確実に実施するように意識した。同時に、児童が日常生活の中で自分たちの行動を振り返る機会となった。

